

2022年3月  
(March)  
第31号

フレンドシップス

# FRIENDSHIPS



奈良市国際交流協会

## ご挨拶

奈良市国際交流協会名誉会長

奈良市長 仲川 げん



春暖の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、奈良市政並びに国際交流事業に多大なるご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2021年は、一年越しのオリンピック・パラリンピック東京大会が開催されました。コロナ禍ということで、開催直前まで議論がなされましたが、無観客とするなど、様々な工夫を凝らしながら選手を受入れ、無事に大会を開催することができました。これは、日本の底力を見せる大きな成果となったと思います。さらに、日本選手団は過去最多58個のメダルを獲得し、コロナ禍という苦しい状況でありながら、華々しい活躍をみせてくれました。

奈良市は、2016年6月より姉妹都市のあるオーストラリアのホストタウンとして登録されておりますが、今回、万全のコロナウイルス感染症対策を取ることで、オーストラリア女子サッカーチームを受入れることができました。ロートフィールド奈良(鴻ノ池陸上競技場)を練習会場に9日間のオリンピック事前キャンプが実施され、選手たちは大いに躍動しておられました。今後、コロナウイルス感染症が収束しましたら、市民の方々や地域の皆様とともに、スポーツを通じた国際交流を推進できればと思います。

奈良市におきまして、2020年度は、慶州市との姉妹都市提携50周年、揚州市との友好都市提携10周年、2021年度には、ベルサイユ市と姉妹都市提携35周年という節目の年を迎えることができました。コロナ禍のため、往来を伴う交流を行うことは叶いませんでしたが、パネル展やオンライン写真展などを通じ、市民の方々と共に、各市とのこれまでの交流の歩みを振り返り、オンライン会談など新たな形で交流を果たすことができました。コロナ禍という状況がオンラインによる交流を促進させたことにより、今後の交流の幅が広がったと言えます。コロナウイルス感染症が収束した後も、オンラインと対面との両方を取り入れながら、継続的な親善交流を行っていく所存でございます。

最後になりますが、会員の皆様におかれましては、奈良市国際交流協会と奈良市のさらなる発展のため、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご多幸を祈念して挨拶といたします。

# 奈良市国際交流協会会員の皆さまへ

奈良市国際交流協会

会長 河野 良文



奈良公園が鮮やかな若草色に染まり、古都奈良にも早春の息吹を感じる季節になりました。会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

2021年は前年から全世界を襲いました新型コロナウイルスの拡大により、日本全体で様々な文化・スポーツ事業が中止・延期されました。この苦境下において困難な状況に置かれている皆様におかれましては、心からのお見舞いを申し上げます。一時も早く状況が好転するのを願わずにはられません。その中で、東京オリンピック・パラリンピックが無事開催されましたことは、大きな喜びでした。

また、2021年度、当協会では新規事業として、「奈良市国際交流出前講座」(奈良ロータリークラブ協賛、奈良市後援)を立ち上げました。この事業は、市内小中学校において、県内留学生在が自国の生活文化の紹介を行うもので、2021年度は9校で実施いたしました。コロナ禍において、海外に行き、国際交流を行うことは困難な状況にありますが、本事業を通して、子どもたちは異文化を体験し、国際理解を深め、人と人の繋がりの大切さを感じてくれたことと存じます。

日本には古来より「和」の文化があります。それは、相手を思いやり、調和して繋がるという意味でもあります。デジタル化・AIなどの普及が著しい昨今ではございますが、一方で他者と社会で繋がれず、社会で居場所を失くしている人々も多くなりました。急速に技術が発展する世の中におきましても、このような困難な状況があり、人々が社会で繋がり調和できる場所の必要性を痛切に感じます。

国際交流におきましても、他者を思いやり繋がるという気持ちが大切だと思います。近年の温暖化で異常気象・自然災害が世界中で頻発している中、全世界の人々がお互いに助け合うときが到来しています。国際交流を積み重ね、お互いを理解するたゆまぬ努力がますます必要になるかと存じます。国際交流の絆を紡がれてこられた会員の皆さまにおかれましては、これからもお力添えをいただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、当協会の活動が世界各国の都市との友好交流の一助となり、世界的な友好の輪が広がっていくことを心から念願いたしますとともに、会員の皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、挨拶いたします。

## 第21回日中友好・日本語スピーチコンテスト

(2021年8月7日)

2021年8月7日、「第21回日中友好・日本語スピーチコンテスト」が1年ぶりに開催されました。この時期は幸運にもコロナ禍が次第におさまってきている時期でありました。

開催は中部公民館の徹底されたコロナ感染防止対策をはじめ、できる限りの対策を取り、一般聴講募集はせず、関係者中心でさせていただきました。会場は多大な協力をいただいている奈良市日本中国友好協会、奈良中国帰国者支援交流会、奈良地域中国留学生学友会の皆様やスピーチの応援の方々で半数ぐらいとなりました。

大賞は郭一博さんの「スマホ以外の楽しみ方」、優秀賞は楊麗さんの「わたしの日本留学生活について」でした。お二人とも奈良女子大学の学生です。特別スピーチは奈良県帰国者連絡会・奈良中国帰国者支援交流会の李少年さん、王光佐さんに日本語学習の成果について発表いただきました。特に大賞の郭さんはまったく他の発表者と異なり、身振り、振る舞い、ポーズ、そして言葉の明確さがテレビなどで見る出演者のようで素晴らしいスピーチでありました。また楊さんの生活の話は興味深く楽しい内容でした。応援の方々から、一人一人に対し、途中で拍手があるなど、会場はおおいに盛り上がりました。

帰国者の皆様の日本語習得は、まさに日本での生活一般に大事でかかせないものでありますが、あせらず、かつ一つずつ積み重ねていただきたいと思います。

日中友好も多くの団体と同じく対面、対人のお付き合い、活動が中心であり、コロナ禍の状況下では大変活動が難しいです。Web等のデジタル操作で会議等が増えてきていますが、個人の力、そして、他団体と連携していく事で活動を活発化していきたいと思います。

2022年はコロナ感染がおさまりスピーチ大会の開催ができ、そして日中国交回復50周年を祝うとともに今後に向けて新しい日中友好活動のスタートとなる年になる事を願わずにはられません。

〔寄稿者：奈良市日本中国友好協会事務局 出野 通夫〕



スピーチコンテスト参加者集合写真

# 聖徳太子1400年御遠忌記念 慈しみと思いやりのコンサート

## -大安寺国際縁日関連行事- (2021年11月3日)

大安寺は聖徳太子が平群に建てた熊凝精舎がその前身であるといわれています。聖徳太子1400年忌にあたる2021年は、恒例のイベント「大安寺国際縁日」の関連行事として、第一部「聖徳太子と大安寺」についてのお話と、第二部「慈しみと思いやりのコンサート」として、各国音楽のコンサートを開催しました。

コロナ禍により2020年に続き縮小開催となりました。会場では感染対策を徹底し、チケットには連絡先を書いていただきました。昨年は留学生に絵馬に各国語で願いを書いてもらいました。そして今年は世界各地の曲を聴いてもらいました。第一部で河野良文貫主と大和妃はるかさんとが「聖徳太子と大安寺」というテーマで「獅子吼殿ホールひびき」にて対談を行いました。

当日は好天にも恵まれ、第二部は大安寺境内での野外の生演奏で大いに盛り上がりました。第一部で対談した大和妃はるかさんが舞台上に飛び入り参加し、第二部の二組の出演者も最後は一緒に演奏し、留学生にも楽しんでもらえました。

今年は留学生による屋台ができず、残念でしたが、コロナ禍であっても国際交流として続けていくことが大事であるということで次年度に繋げたいと思います。

「寄稿者：Nara Stag Club 田中 栄一」



河野良文貫主(右)と大和妃はるかさん(左)



留学生の絵馬



獅子吼殿ホールひびき



Tomoo&Saki with木場孝志とNMGsの合同演奏(野外ステージ)



合同演奏を楽しむ参加者

## 第10回 NaFu!国際チャリティコンサート

(2021年12月25日)

コロナ禍にあり開催困難と危ぶまれる長い期間を経て、「第10回NaFu!国際チャリティーコンサート」を開催しました。このコンサートは、より多くの皆様に国際協力を呼びかけ、スリランカに井戸を贈ることを目的としています。会場となった奈良公園バスターミナルレクチャーホールは、奈良らしい木のぬくもりを感じる会場で、当日は厳かな中にも晴れやかな賑わいとなりました。スタッフ一同は緊張の中、新型コロナウイルス感染予防対策を慎重に行いました。県内外から参加いただいた賛同者の温かい拍手とともに舞台はクリスマスシーズンにふさわしいチャイコフスキー「くるみ割り人形」で始まり、フルートと弦楽三重奏(バイオリン、ビオラ、チェロ)の縷子の調べで、会場は一挙に湧きました。また、錫日国際交流の歩みと現地メッセージなどの上映や、スリランカ人留学生の舞台挨拶も有り、支援活動の一コマを紹介できました。

奈良県視覚障害者の皆さまをご招待させて頂き、今回は13名の参加があり、大変喜んで頂きました。

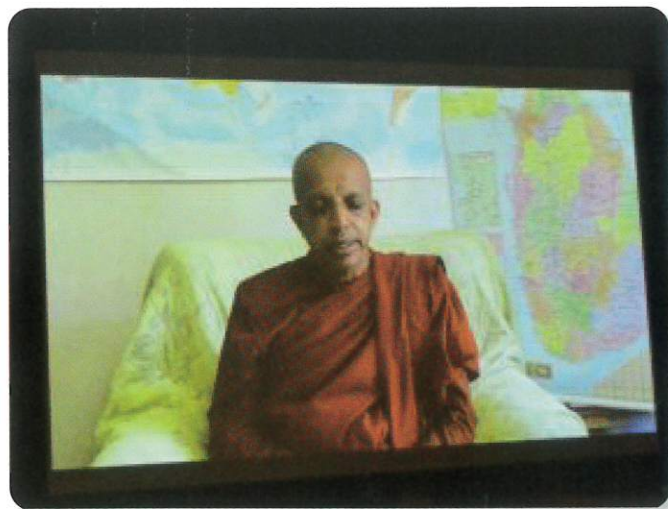
2012年12月にスリランカ国へ第一基目の井戸を贈呈し、その後スリランカ国と様々な交流をかさねてきました。交流の中で水の大切さや現地の生活の実情を知れば知るほど、国際協力活動の必要性を切実に感じます。これからもスリランカへの2基目の井戸建設工事のための募金活動やバザー活動は続きます。毎年起こる洪水やこの度のコロナ禍で進捗は妨げられていますが、ようやく2022年に現地にて計画が実現する予定です。引き続き市民レベルの交流が世界を拓く、NaFu!の活動「スリランカに井戸を贈ろう!」は、皆様と共に一步一步進んで参ります。

沢山のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。

〔寄稿者：NPO法人 国際交流ならふれあいの会 野原 純子〕



スリランカ井戸プロジェクト映像上映



スリランカ僧侶ダンミカ長老メッセージ



コンサートの様子



会場の様子

## 奈良市国際交流出前講座

(2021年度)

奈良市国際交流協会主催の事業として、2021年度より新たに「奈良市国際交流出前講座」を実施しました。奈良ロータリークラブ様の協賛、奈良市の後援を得ながら、子どもたちの国際交流の推進を目的に活動を行いました。

「奈良市国際交流出前講座」とは、奈良県内の大学や専門学校に在籍している留学生が、奈良市内の小中学校の授業や放課後子ども教室に足を運び、講師として自国の生活文化や簡単なあいさつ、日本に来て驚いた経験などについて紹介する講座です。子どもたちが異文化に触れることで生まれた興味や、疑問について留学生に質問する時間も設け、お互いに会話のキャッチボールをしながら楽しんで交流することができました。また、留学生が持参した自国の紙幣や食材を、子どもたちは実際に見て、触れて、体感することで、より記憶に残る講座になったと思います。コロナウイルス感染症の影響で、残念ながらオンラインでの実施となった学校もありましたが、自国からオンラインを繋いで講座を実施してくれた留学生もおり、現地で販売されているお菓子やアイスなどをクイズ形式で紹介するなど、工夫しながら講座を進めてくれました。

2021年度は、市内9校の小中学校で講座を実施し、インドネシア、韓国、スリランカ、マレーシア、ミャンマー、ベトナムの6か国の留学生が講師を務めました。留学生は、初めての日本の小中学校訪問で緊張しながらも、子どもたちからの歓迎を受けて、いきいきと自国の紹介をしてくれました。参加した留学生からは、日本の小学校で話す機会をもらえていい経験になったという感想や、子どもたちに自国のことを知ってもらうことができ嬉しかったという感想が多くありました。子どもたちが熱心に話を聞き、メモを取り、積極的に質問をしていたことに感心している留学生もいました。講座に参加した子どもたちからは、日本との文化の違いに触れたことで驚きの声があがり、講座の後、紹介を聞いた国について調べる姿も見られたそうです。

今回の講座は、奈良市国際交流協会としては初めての試みでしたが、多くの方々のご協力により、子どもたちや留学生にとって貴重な交流の機会を創出することができました。今後も継続して、未来を担う子どもたちの世代から始める国際交流を推進していきたいと思います。

「寄稿者：奈良市国際交流協会」



参加した留学生の集合写真 ※撮影時のみマスクを外しています。



子どもたちに自国の食文化を紹介する留学生の写真



子どもたちに自国の挨拶を教える留学生の写真

# 奈良市・慶州市 姉妹都市提携50周年記念 奈良市・揚州市 友好都市提携10周年記念

2020年度に、奈良市と慶州市(韓国)は、姉妹都市提携締結50周年を迎えました(1970年4月15日提携)。また、奈良市と揚州市(中国)は、友好都市提携締結10周年を迎えました(2010年5月23日提携)。

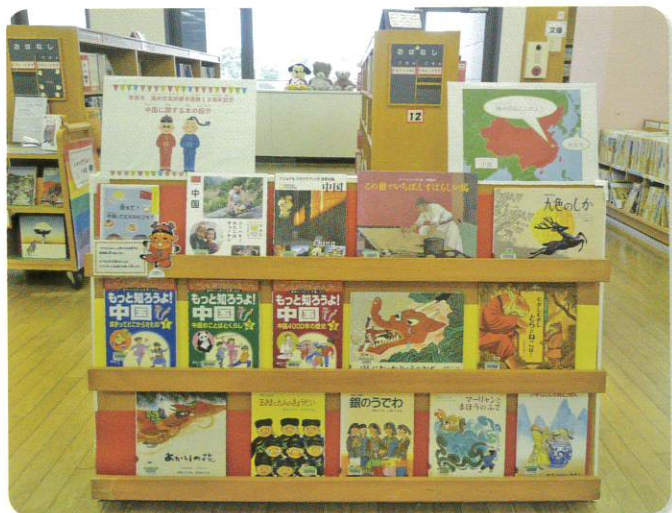
それぞれ、提携50周年、10周年という節目を迎えるということで、当初、対面での交流も含めた様々な事業を検討していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ウィズコロナで実現できる交流を実施することになりました。奈良市役所内や公民館等での周年記念パネル展示の実施や、図書館での関連図書の特設コーナーの設置により、友好姉妹都市について市民の皆さまに広く周知しました。関連図書の特設コーナーには、周年記念として作成した各市の紹介冊子を設置し、児童の書籍コーナーには、友好姉妹都市のある韓国、中国について、子どもたちにも親しみをもってもらえるように子ども向けの紹介冊子を設置しました。また、奈良市のホームページでは、各市の周年ページを作成し、観光パンフレットのデータや観光PR動画の掲載を行うことで、各市の風景を多くの方々にご覧いただきました。

両市の友好姉妹都市提携の経緯や、観光名所、特産品、料理を紹介したパネルや冊子、また、物語や文学などの書籍を通して、友好姉妹都市をより身近に感じていただけたことと思います。

慶州市との交流においては、両市の半世紀にわたる交流の歩みをつづったオンライン写真展の開催や、両市長のオンライン会談など、オンラインでの周知や交流も新たな試みとして実施しました。また、揚州市との交流においては、揚州市出身の方、直伝の「揚州炒飯」のレシピをホームページ上で公開し、揚州市の味を味わっていただくことで、揚州市を感じていただくとともに、コロナ禍でのおうち時間を楽しんでいただけるような企画を実施しました。

「交流」と一言と言っても様々な交流のかたちがあり、その数は無限にあることを、友好姉妹都市との周年をコロナ禍で迎えたことにより学ぶことができました。今後、新型コロナウイルス感染症が収束しましたら、今回の経験で培ったオンライン等の活用を取り入れながら、新たな交流の形を模索していきたいと思います。

〔寄稿者：奈良市〕



友好姉妹都市関連図書の特設コーナーの様子



子ども向けの友好姉妹都市紹介冊子



オンライン写真展



奈良市役所内でのパネル展示の様子